兼松株式会社

2027年３月期 第２四半期（中間期）決算説明資料

2026年11月10日（火）

（見通しに関する注意事項）
本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは、様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがありますので、本情報や資料の利用については、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行ってくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。なお、表示の数値は、億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期（中間期） 決算概況

- 当期利益[1)]は前年同期比＋51%。中間期として5年連続、過去最高益を更新。
- 上期の好調を踏まえ、通期見通しは当期利益385億円に上方修正。増配。
- GSX株式売却[2)]に伴う投資利益は、現時点でTOB成立が未確定のため、上方修正には織り込まず。

2027年3月期第2四半期実績

(単位：億円)	26/3月期 2Q実績	27/3月期 2Q実績	前年同期比	増減率
収益	5,135	5,719	+584	+11%
営業活動に係る利益	252	366	+114	+45%
親会社所有者帰属中間利益	161	244	+83	+51%
（調整後）営業活動によるキャッシュ・フロー	155	318	+163	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59	△88	△29	

	26/3月末	26/9月末	前期比
ネットDER[3)]	0.45倍	0.45倍	-
自己資本比率	28.4%	30.2%	+1.8%

2027年3月期通期見通し

（単位：億円）	27/3月期 通期見通し（修正前）	27/3月期 通期見通し（修正後）	2Q 進捗率（修正後）
収益	11,000	11,500	50%
営業活動に係る利益	540	600	61%
親会社所有者帰属当期利益	350	385	63%
一株当たり年間配当金	70円	77円	
連結配当性向	33.3%	33.3%	

1) 本資料の文中では、「親会社所有者帰属中間利益」を「当期利益」と表記
2) 10月30日公表「公開買付けに伴う株式売却に係る「持分法による投資利益」の計上（見込み）および業績への影響に関するお知らせ」 参照
3) ネットDER＝ネット有利子負債÷自己資本（親会社の所有者に帰属する持分合計）

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

損益の状況

2027年3月期第2四半期（中間期） 実績

(単位：億円)	26/3月期 2Q実績	27/3月期 2Q実績	前年同期比	増減率
収益	**5,135**	**5,719**	**+584**	**+11%**
売上総利益	823	958	+135	+16%
販売費及び一般管理費	△584	△640	△57	-
その他の収益・費用	12	47	+35	+298%
営業活動に係る利益	**252**	**366**	**+114**	**+45%**
利息収支	△21	△25	△4	-
受取配当金	8	11	+4	+48%
その他の金融収益・費用	△2	1	+3	-
金融収益・費用	△16	△13	+3	-
持分法による投資損益	7	7	△0	△3%
税引前中間利益	**243**	**360**	**+117**	**+48%**
法人所得税費用	△76	△110	△34	-
中間利益	166	249	+83	+50%
親会社所有者帰属中間利益	**161**	**244**	**+83**	**+51%**

■ 収益

電子・デバイスや、鉄鋼・素材・プラントセグメントを中心に、584億円の増収

■ 営業活動に係る利益

販売費及び一般管理費が増加した一方、売上総利益の伸長に伴い、114億円の増益

■ 税引前中間利益

営業活動に係る利益の増加に伴い、117億円の増益

■ 親会社所有者帰属中間利益

中間期過去最高益となる244億円。
前年同期比＋51%、83億円の増益

2027年3月期見通し（修正後）

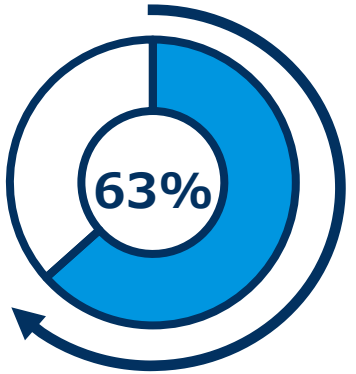
(単位：億円)	27/3月期 通期見通し	2Q進捗率
収益	11,500	50%
営業活動に係る利益	600	61%
税引前利益	560	64%
親会社所有者帰属当期利益	385	63%
連結配当性向	33.3%	

親会社所有者帰属当期利益の見通し（修正後）

通期見通し**385**億円



2Q進捗率

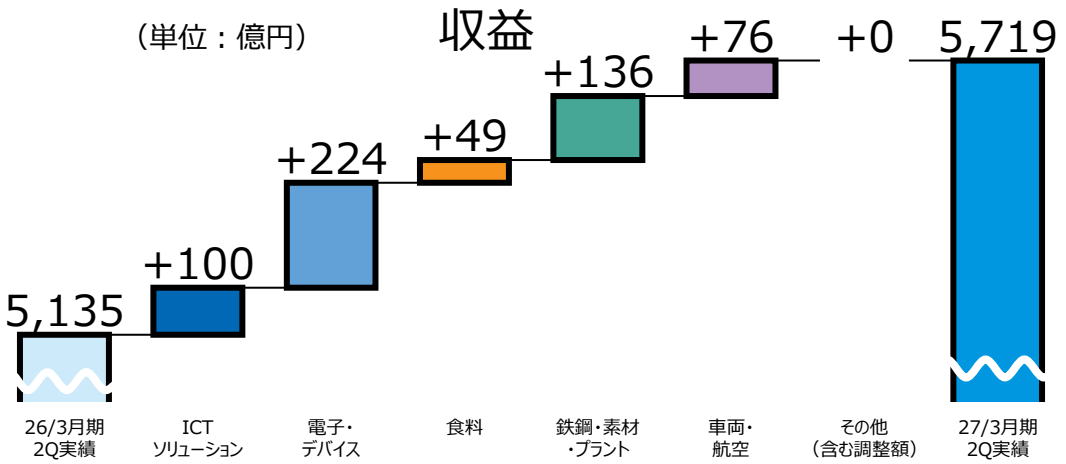


上期は、ICTソリューション事業などが好調に推移したことに加え、半導体部品・製造装置、電子機器・電子材料、食品、畜産、エネルギー事業などが期初想定を上回って推移しました。下期は中東情勢を背景とした商品確保の動きの揺り戻し等の先行き不透明感や投資関連費用の発生などを見込んでいることから、総合的に勘案し、当期利益の通期見通しを35億円上方修正し、385億円としました。

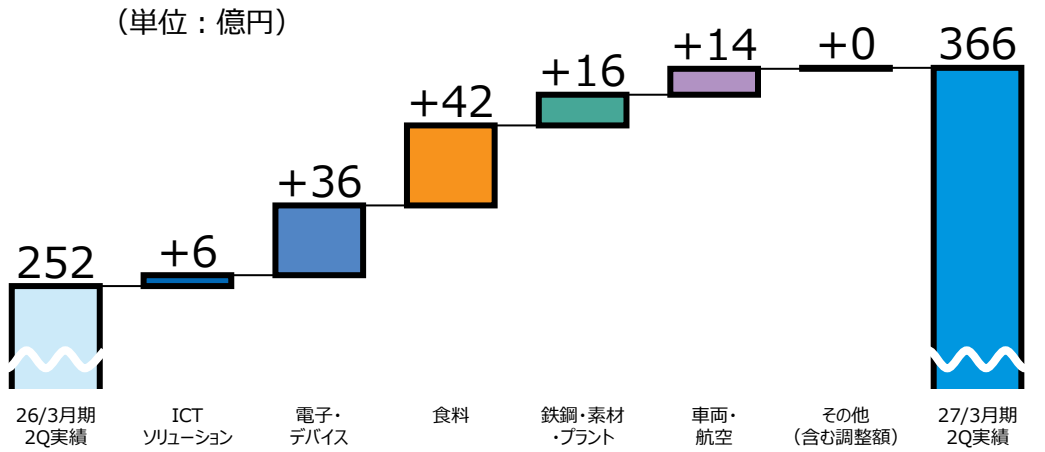
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

セグメント情報

(単位：億円)	26/3月期 2Q実績	**27/3月期 2Q実績**	前年同期比	増減率	27/3月期 通期見通し (修正後)	進捗率
ICTソリューション						
収益	527	**626**	+100	+19%	1,150	54%
営業活動に係る利益	77	**83**	+6	+7%	163	51%
親会社所有者帰属中間利益	51	**57**	+6	+11%	110	52%
電子・デバイス						
収益	1,358	**1,582**	+224	+17%	3,250	49%
営業活動に係る利益	80	**117**	+36	+45%	189	62%
親会社所有者帰属中間利益	54	**78**	+25	+46%	127	62%
食料						
収益	1,817	**1,866**	+49	+3%	3,800	49%
営業活動に係る利益	39	**81**	+42	+108%	107	75%
親会社所有者帰属中間利益	23	**47**	+25	+108%	64	74%
鉄鋼・素材・プラント						
収益	814	**950**	+136	+17%	1,950	49%
営業活動に係る利益	31	**47**	+16	+52%	79	59%
親会社所有者帰属中間利益	20	**32**	+12	+62%	44	72%
車両・航空						
収益	609	**685**	+76	+13%	1,300	53%
営業活動に係る利益	27	**41**	+14	+50%	62	66%
親会社所有者帰属中間利益	16	**29**	+12	+77%	41	70%
その他（含む調整額）						
収益	10	**10**	+0	-	50	-
営業活動に係る利益	△3	**△2**	+0	-	0	-
親会社所有者帰属中間利益	△2	**1**	+4	-	△1	-
合計						
収益	5,135	**5,719**	+584	+11%	11,500	50%
営業活動に係る利益	252	**366**	+114	+45%	600	61%
親会社所有者帰属中間利益	161	**244**	+83	+51%	385	63%



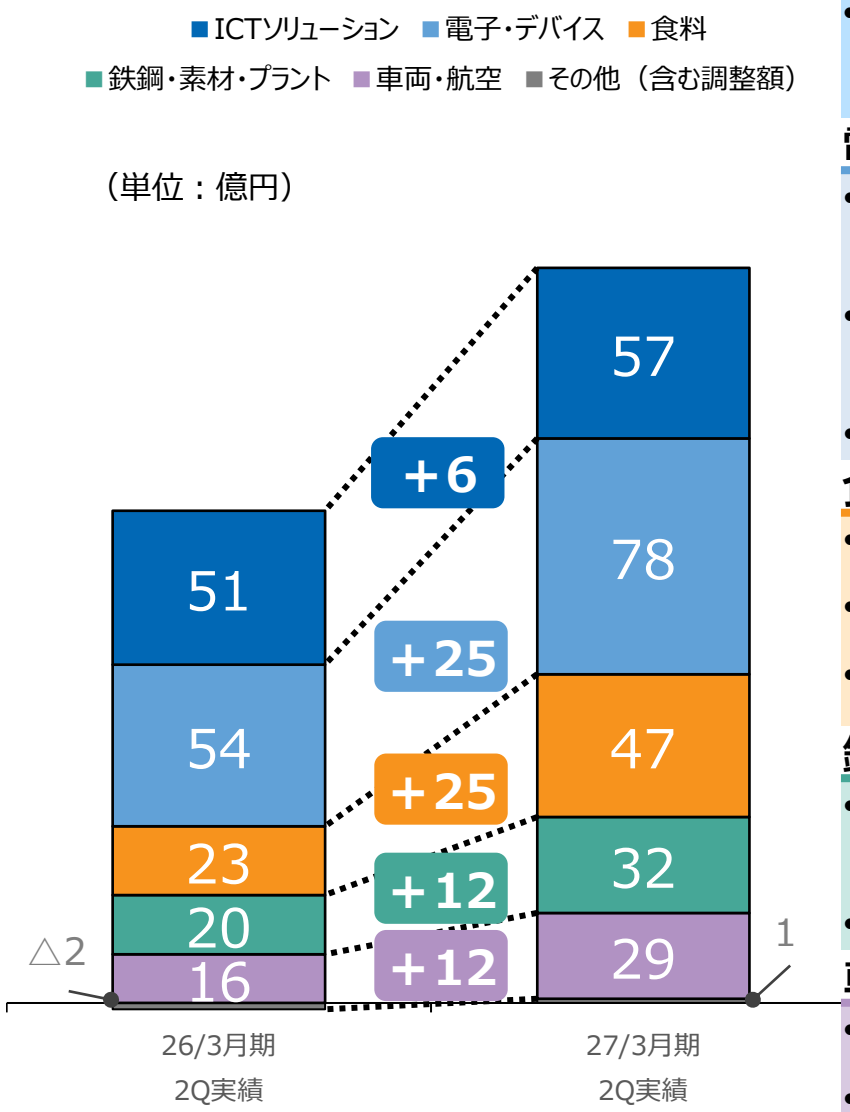
営業活動に係る利益



© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

セグメント別中間利益

親会社所有者帰属中間利益



前年同期比の主な増減要因

ICTソリューション　6億円増益

- AI・データセンター関連投資の活況を受け、半導体などの製造業などが牽引。サイバーセキュリティ需要の拡大に伴う引き合い増加もあり、増益。

電子・デバイス　25億円増益

- **半導体部品・製造装置**：AI需要の伸長に伴う半導体メモリ逼迫・高騰による半導体部品取引の好調、および半導体製造装置の販売が好調に推移し、増益
- **電子機器・電子材料事業**：AIサーバー用途の電子材料や、ウェハ等半導体材料の伸長に加え、プリンター関連事業の業績回復が寄与し、増益
- **モバイル事業**：販路拡大や付加価値サービス・商材の拡充などにより、増益

食料　25億円増益

- **食品事業**：飲料原料取引が引き続き好調に推移し、増益
- **畜産事業**：全畜種において不調だった前年同期比から改善したことから、増益
- **食糧事業**：魚粉・魚油、牧草や大豆粕などの穀物飼料取引が増加し、増益

鉄鋼・素材・プラント　12億円増益

- **エネルギー事業**：中東情勢を背景とした供給懸念による商品確保需要により、船舶用燃料を中心とした取引が増加し、増益
- **鉄鋼・鋼管事業**：国内鉄鋼子会社の売却益を計上した前期比で減益

車両・航空　12億円増益

- **車両・車載部品**：欧州の車両・車載事業が好調に推移し、増益
- **工作機械・産業機械**：半導体や航空・防衛関連産業の需要増加により、増益

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

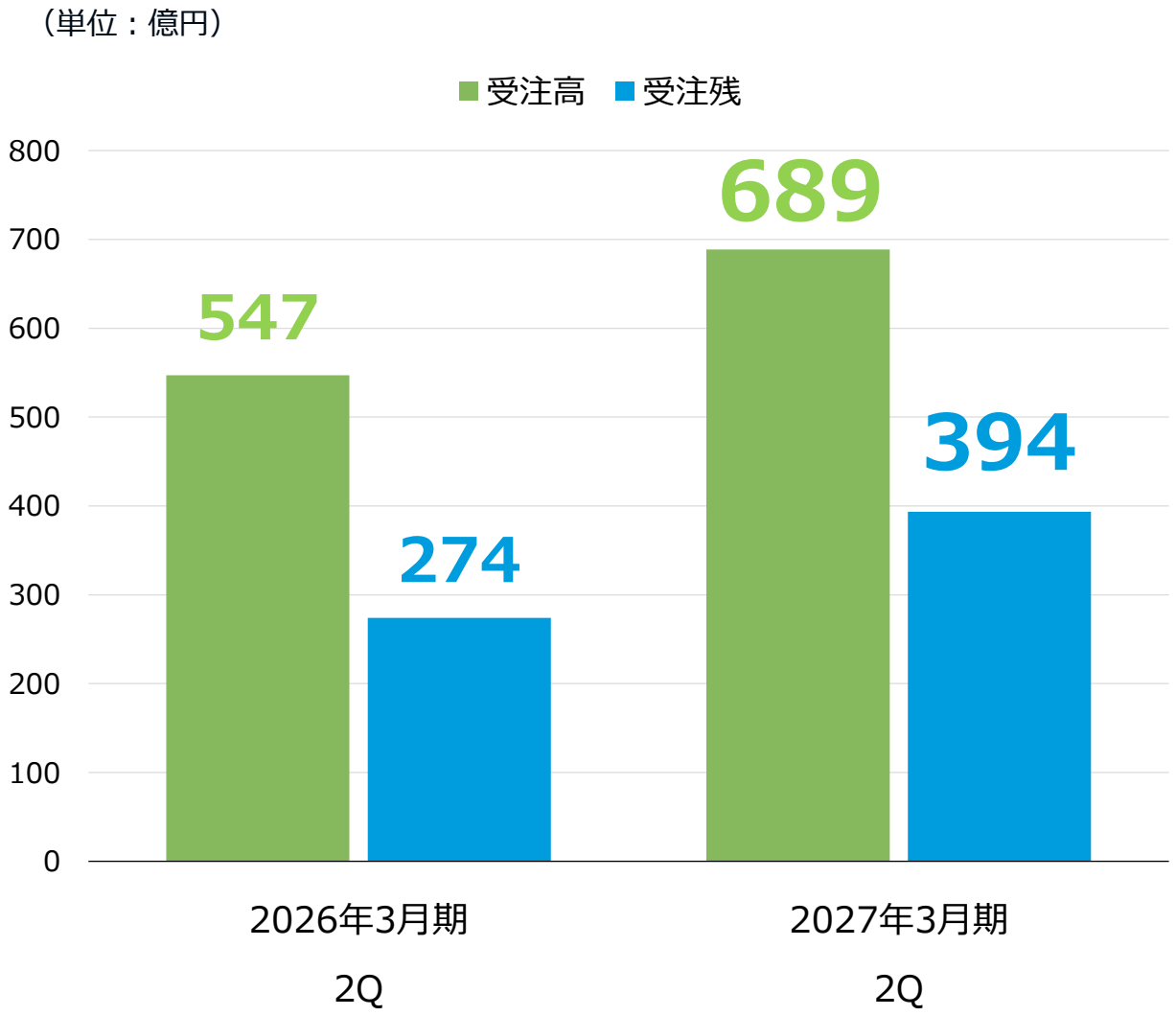
サブセグメント別情報

(単位：億円)	営業活動に係る利益			親会社所有者帰属当期利益						
	26/3月期 2Q実績	**27/3月期 2Q実績**	前年同期比	26/3月期 2Q実績	**27/3月期 2Q実績**	前年同期比	27/3月期 通期見通し（期初）	修正	**27/3月期 通期見通し（修正後）**	進捗率（修正後）
ICTソリューション	77	**83**	+6	51	**57**	+6	110	-	**110**	52%
半導体部品・製造装置	10	**23**	+13	6	**15**	+8	12	+8	**20**	74%
電子機器・電子材料	8	**21**	+13	6	**15**	+9	15	+5	**20**	74%
モバイル	62	**73**	+10	42	**49**	+7	87	-	**87**	56%
電子・デバイス	80	**117**	+36	54	**78**	+25	114	+13	**127**	62%
食品	10	**23**	+12	7	**15**	+9	11	+7	**18**	85%
畜産	7	**28**	+21	3	**15**	+12	18	+3	**21**	71%
食糧	21	**30**	+8	13	**17**	+5	25	-	**25**	69%
食料	39	**81**	+42	23	**48**	+25	54	+10	**64**	74%
鉄鋼・鋼管	17	**9**	△8	11	**7**	△5	11	-	**11**	60%
エネルギー・化学品・プラント	10	**31**	+21	6	**21**	+15	15	+12	**27**	79%
環境関連	4	**7**	+3	2	**4**	+2	6	-	**6**	65%
鉄鋼・素材・プラント	31	**47**	+16	20	**32**	+12	32	+12	**44**	72%
航空宇宙	22	**28**	+6	13	**16**	+3	24	-	**24**	68%
車両・車載部品	2	**2**	0	1	**5**	+5	4	-	**4**	134%
工作機械・産業機械	4	**11**	+7	2	**7**	+5	13	-	**13**	54%
車両・航空	27	**41**	+14	16	**29**	+12	41	-	**41**	70%
その他（含む調整額）	△3	**△2**	0	△2	**1**	+4	△1	-	**△1**	-
合　計	**252**	**366**	**+114**	**161**	**244**	**+83**	**350**	**+35**	**385**	**63%**

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

兼松エレクトロニクスの状況 – 受注拡大と受注残の積み上がり

受注高・受注残の推移



累計受注高（2027年３月期第２四半期）

689億円　（前年同期比 +20%）

➢ **デジタル化に伴う旺盛な ICT投資需要を取り込み拡大**

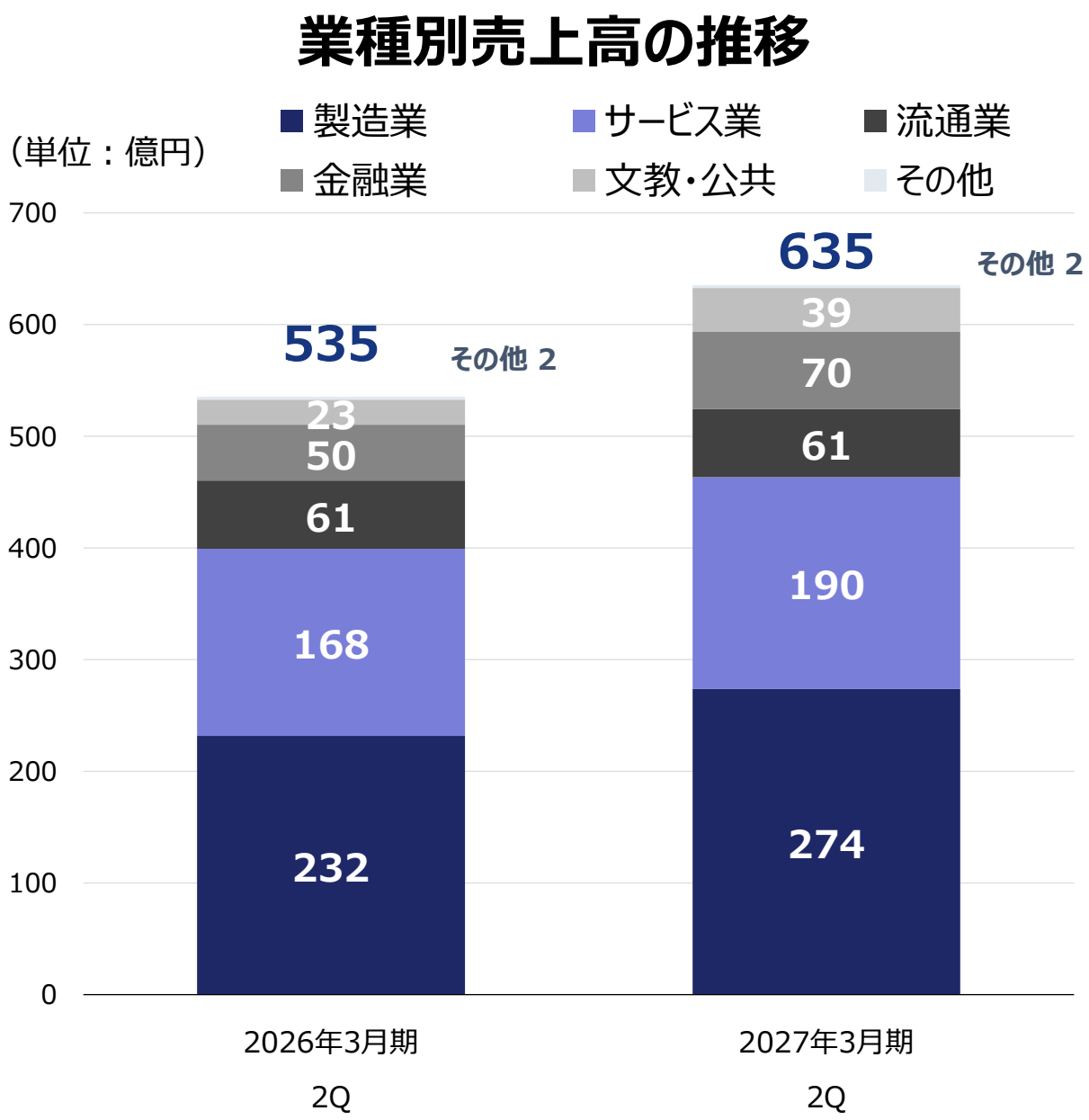
受注残高（2027年３月期第２四半期）

394億円　（前年同期比 +44%）

➢ **受注を着実に積み上げ、前年比44%伸長**

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

兼松エレクトロニクスの状況 – 業種別売上高の推移



売上高（2027年３月期第２四半期）

635億円　（前年同期比 +19%）

製造業を中心に、ほぼ全業種で増収を達成

主な成長ドライバー

- 製造業：274億円（前年同期比 +18%）
  - ➢ 特に**半導体・防衛業界**が牽引
- その他業種は、**金融業、文教・公共向け**が伸長

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

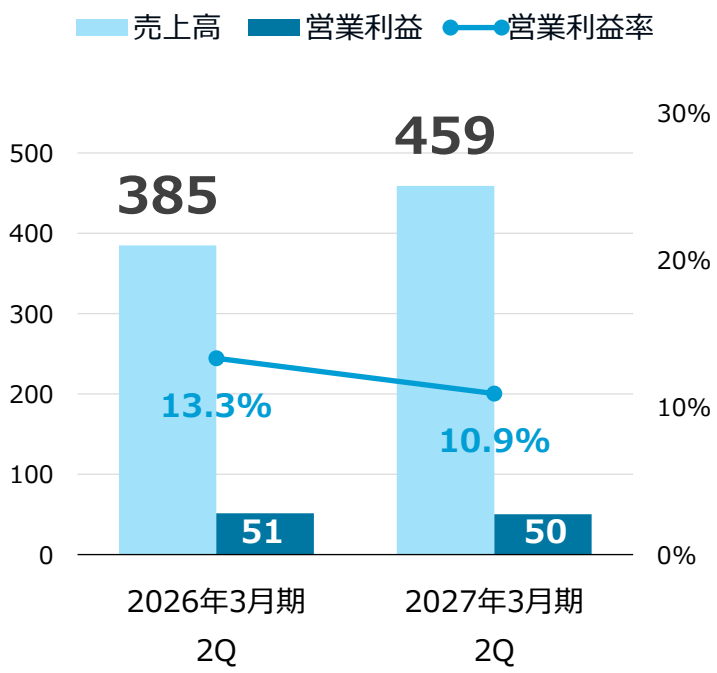
兼松エレクトロニクスの状況 – 事業別売上・営業利益

■サービス・サポート事業の成長により、安定的・高収益な収益基盤を構築

システム事業

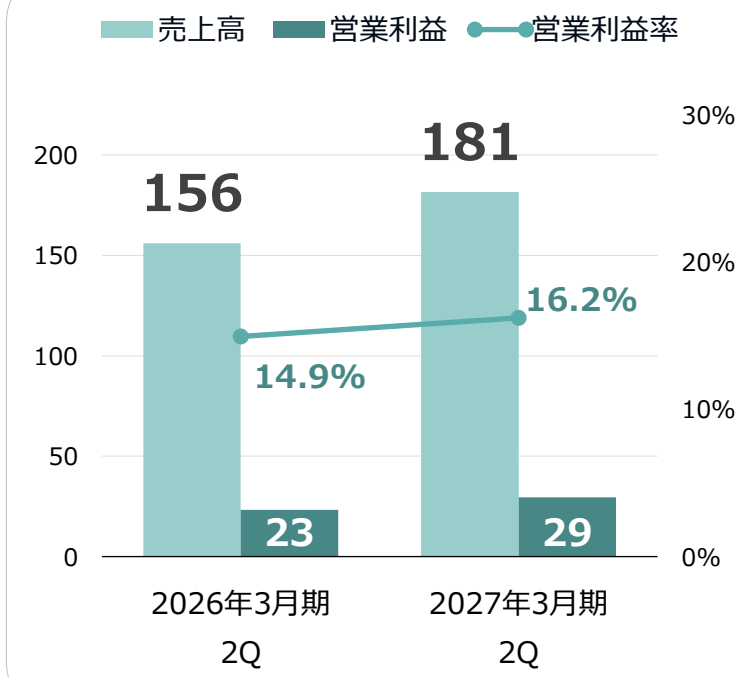
売上高は増加傾向

（単位：億円）



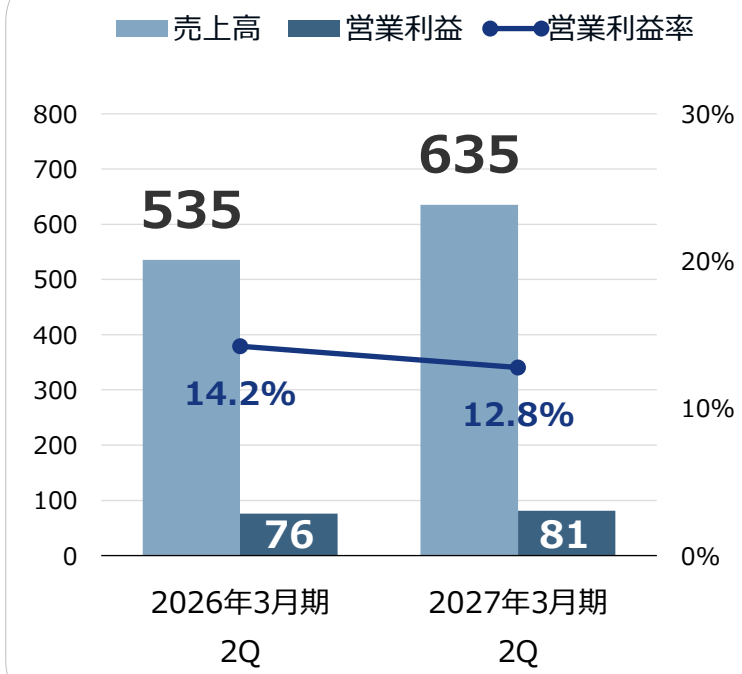
サービス・サポート事業

安定的なストック収益
売上・利益・利益率が改善



全社計（その他・調整額含む）

両事業とも着実に成長
売上・利益共に前年同期比で増加



1）事業別の売上高・営業利益率は、KELサブ連結上の内部取引消去等を反映する前の管理ベースの数値です。
2）全社計の売上高・営業利益率は、サブ連結ベースの数値であり、その他・調整額等の数値を含んでいます。
3）各グラフで売上高の縦軸スケールは異なります。

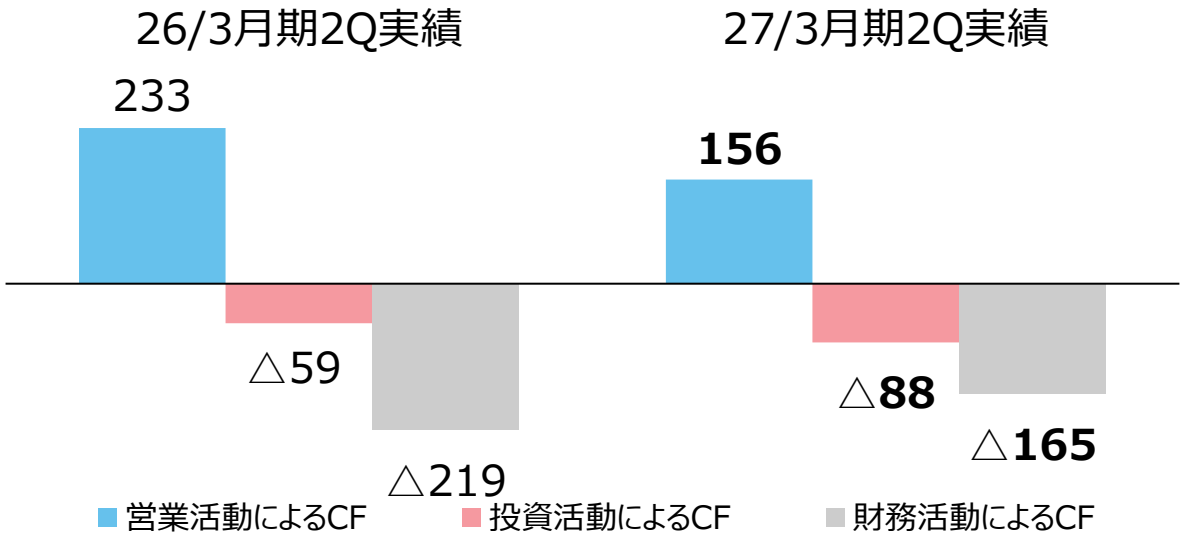
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
  営業収入などにより、**156億円のキャッシュ・イン**
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
  新規事業投資の実行や有形固定資産の取得などにより、**88億円のキャッシュ・アウト**
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
  借入金およびリース負債の返済や配当金の支払いなどにより、**165億円のキャッシュ・アウト**

(単位：億円)	26/3月期 2Q実績	27/3月期 2Q実績	前年 同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	233	156	△77
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59	△88	△29
フリーキャッシュ・フロー	174	68	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△219	△165	+54
（調整後）営業キャッシュ・フロー[1)]	155	318	+163

1) （調整後）営業キャッシュ・フロー ＝ 会計上の営業キャッシュ・フロー ± 運転資本増減 - リース負債の返済

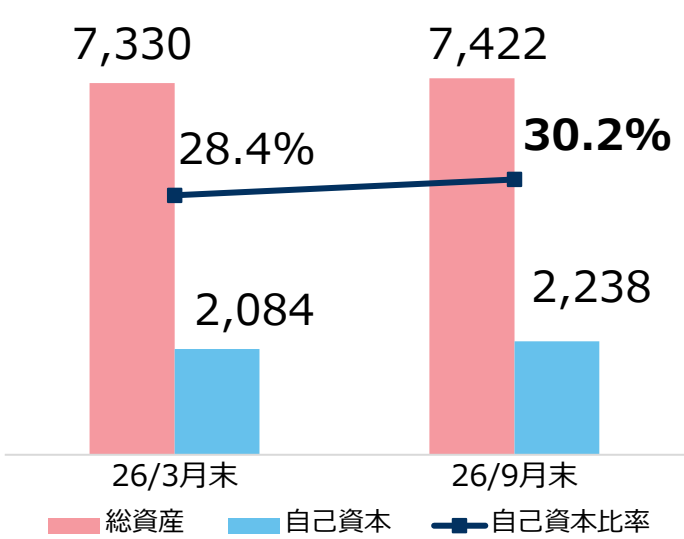


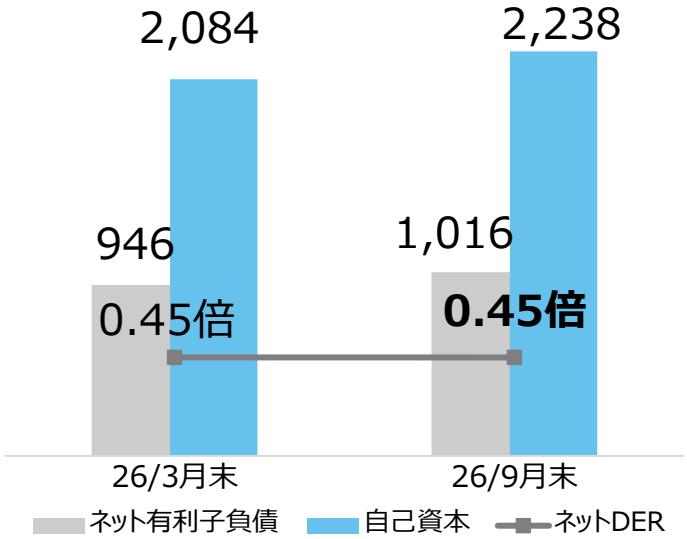
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

財政状態

- 総資産
  売掛債権等が減少したものの、棚卸資産の増加により、**92億円の増加**
- ネット有利子負債
  グロス有利子負債の減少を上回る現預金の減少により、**69億円の増加**
- 自己資本
  当期利益の積み上げにより、**154億円の増加**
  自己資本比率は**30.2%**、ネットDERは**0.45倍**

(単位：億円)	26/3月末	26/9月末	増減
総資産	7,330	7,422	+92
ネット有利子負債	946	1,016	+69
自己資本[1)]	2,084	2,238	+154
自己資本比率[2)]	28.4%	30.2%	+1.8%
ネットDER[3)]	0.45倍	0.45倍	-
PBR[4)]	1.76倍	1.67倍	△0.09倍





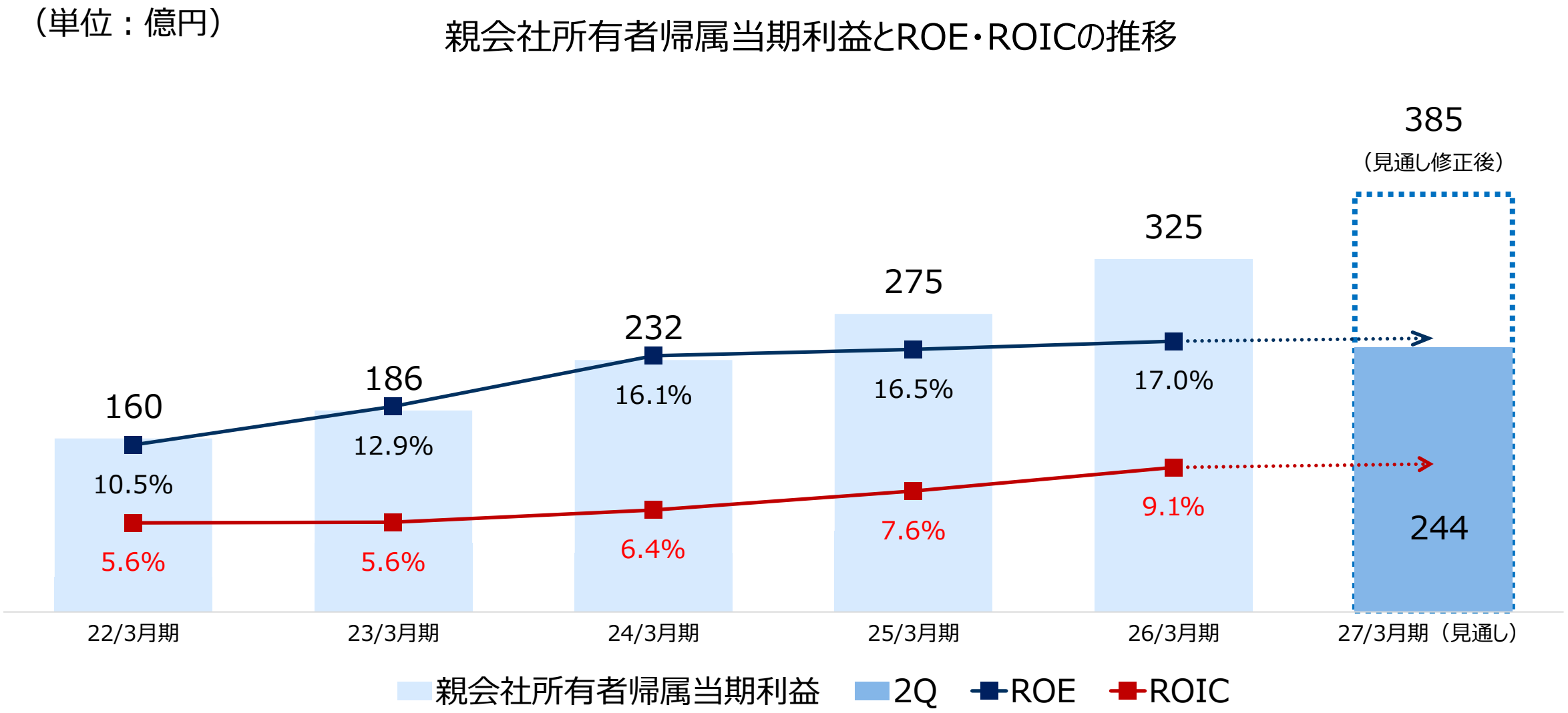
1）自己資本は資本の「親会社の所有者に帰属する持分」
2）自己資本比率＝自己資本÷総資産
3）ネットDER＝ネット有利子負債÷自己資本
4）PBR=期末株価（東証終値）÷1株当たり親会社の所有者に帰属する持分

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

ROE・ROICの推移

■ ROE・ROICともに中期経営計画の目標水準（ROE16～18%、ROIC8%以上）で推移

（単位：億円）

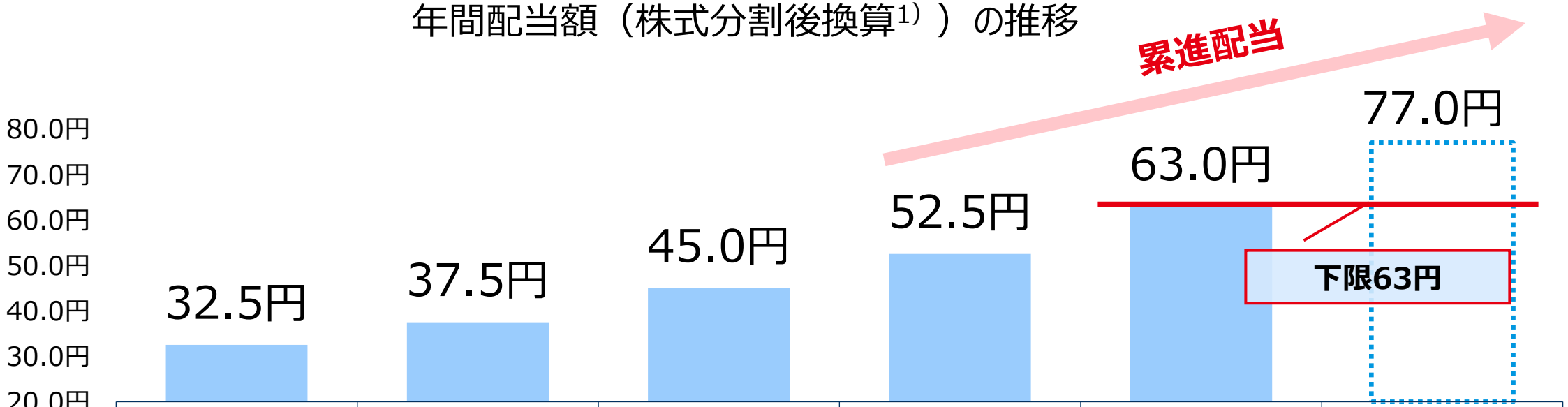


© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

株主還元方針

- 累進配当により、2027年3月期の配当金の下限は63円
- **2027年3月期の年間配当金は、期初予想から7円引き上げ、前期比14円増配の77円を予定**
- 総還元性向30～35%を目標に、当期利益の成長に応じた株主還元を継続

年間配当額（株式分割後換算[1)]）の推移



	22/3月期	23/3月期	24/3月期	25/3月期	26/3月期	27/3月期（見通し）
年間配当額/株	32.5円	37.5円	45.0円	52.5円	63.0円	**77.0円**
連結配当性向	34.0%	33.7%	32.4%	31.9%	32.2%	33.3%

1）2026年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり配当金」を算出しております。

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

中期経営計画「integration 1.1」の進捗

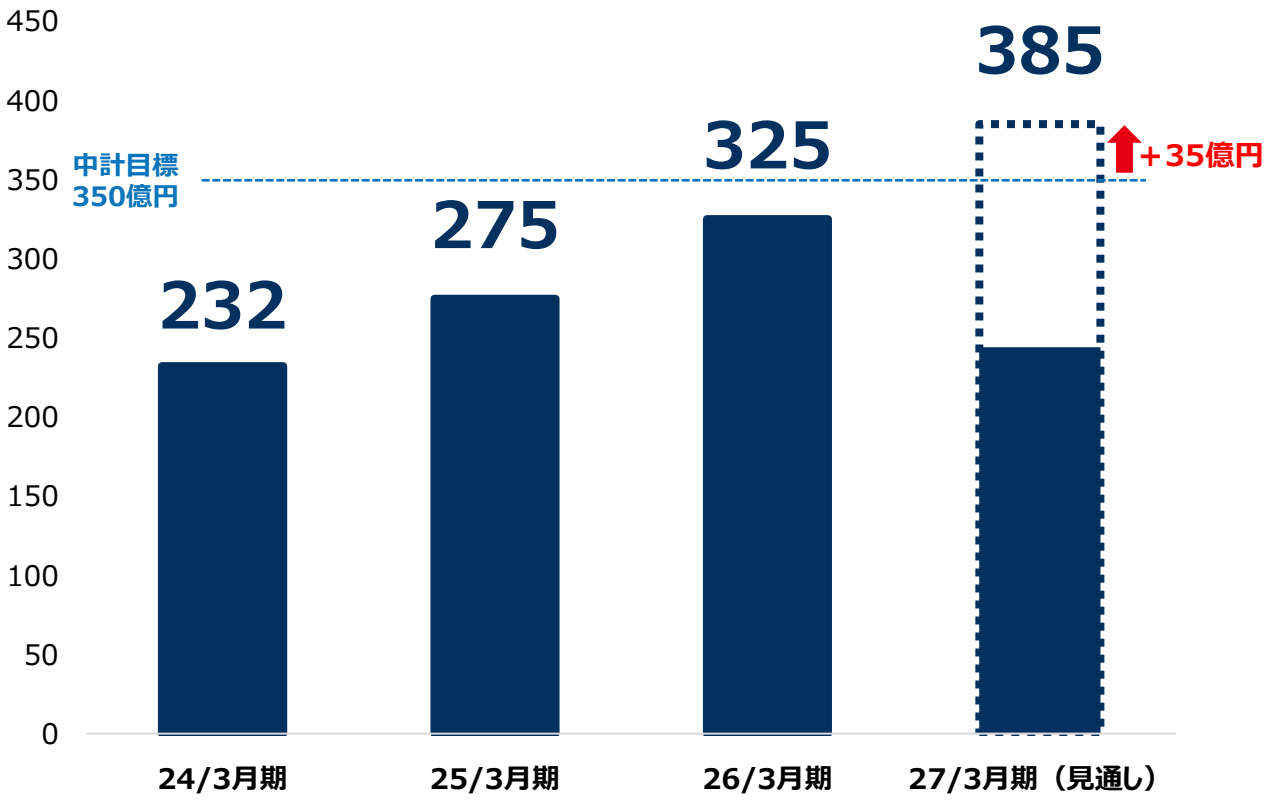
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

中期経営計画「integration 1.1」の現在地

- 「integration 1.1」で進めてきた取り組みの成果が、利益成長という形で着実に顕在化
- 見通しを385億円へ上方修正し、中計目標350億円を達成見込み

当期利益の推移

（単位：億円）



当期利益CAGR（27/3月期見通しを含む直近３年間） **18.4%** | **当期利益 6 期連続増益を見込む**

今期好調事業 （見通し +35億円の要因）

半導体関連事業	• 半導体メモリ価格高騰による半導体部品取引好調、および半導体製造装置の販売好調 • AIサーバー用電子材料や、ウェハ等半導体材料取引が伸長
食品・畜産事業	• コーヒーや、ウイスキーなどの飲料原料取引が好調 • 全畜種で低調が続いていた前年同期から回復
エネルギー事業	• 中東情勢を背景とした供給懸念による商品確保需要により、船舶用燃料を中心とした取引が増加

中計目標を達成見込み

見通し上方修正
385 億円
当初見通し **+35億円**

中期経営計画目標
350 億円 達成見込み

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

中期経営計画「integration 1.1」の進捗

- 「integration 1.1」で掲げた方針のもと各施策を推進し、利益成長が進展
- 安定収益基盤から創出したキャッシュを注力事業の成長に活用し、資産入れ替えを推進

基本方針

グループ一体経営の推進

グループの総合力を最大化し、
顧客接点・知見・機能を横断的に活用

×

提供価値の拡充

顧客課題の解決に資する
ソリューションを拡充

経営施策 / 主な取組み

安定収益基盤 (p.20)

モバイル

注力事業の成長 (p.20)

- **ICTソリューション**
- **半導体関係**
- **防衛/航空宇宙**
- **食料海外展開**

資産入替等

政策保有株縮減
国内鉄鋼事業譲渡

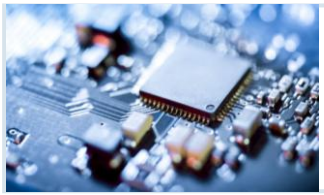
✓ 中期経営計画中の当期利益は232億円(24/3期)から325億円(26/3期)へ拡大

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

グループ一体経営の推進①

■ グループ成長戦略推進室をハブとして、部門や企業の垣根を越えた事業開発を推進

強固な事業基盤を有するトレーディング事業



電子・デバイス

KCS Kanematsu Communications　JMT JM Technology Inc.



食料

兼松食品株式会社



鉄鋼・素材・プラント

兼松サステック株式会社



車両・航空

株式会社兼松KGK

2023年10月新設
社長直轄組織

グループ成長戦略推進室

部門・企業を越えてつなぐ

- 部門横断クロスセルの推進
- イノベーションの探索と実装
- 投資先企業のバリューアップ
- 新たな思考・行動様式の定義・実践

累計 室員・出向者
26名

成長を牽引する中核事業



ICTソリューション

KEL
KANEMATSU ELECTRONICS LTD.

ICTソリューションを主軸としたグループ一体経営を推進し、2万社を超える取引先に対してソリューションを提供

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

グループ一体経営の推進②

01 グループの知見を結集　グループ成長戦略推進室

- 社長直轄組織として2023年10月に新設
- 国内主要グループ会社4社から累計8名が参画
- **イノベーションの探索拠点**
  ・シリコンバレー：Kanematsu Venturesを2名体制に拡充
  ・シンガポール：アジアでの投資促進に向け1名派遣
  ・インド　：スタートアップ支援プログラムへ1名派遣

部門・会社を越えて知見を集め、事業開発・シナジー創出へ

02 人材・スキルをつなぐ　KELとの人材交流

KELへの出向者（累計）

21名

兼松 ⇄ KEL

- 商社の顧客・業界知見とKELのICT技術力・提案力を融合
- 顧客課題の把握から提案・構築・運用までを経験
- ビジネスとデジタル双方の知見を持つ人材を育成

グループ横断で多様な経験・スキルを持つ人材を育成

03 顧客基盤をつなぐ　クロスセル

162社
主要顧客へアプローチ

97社
クロスセル提案を実施

- グループ各社の顧客基盤・商材情報を共有
- 顧客ニーズに応じてグループの製品・サービスを提案

2万社を超える顧客基盤を相互活用し、事業機会を拡大

04 新たな事業につなぐ　例：ElliQの日本展開



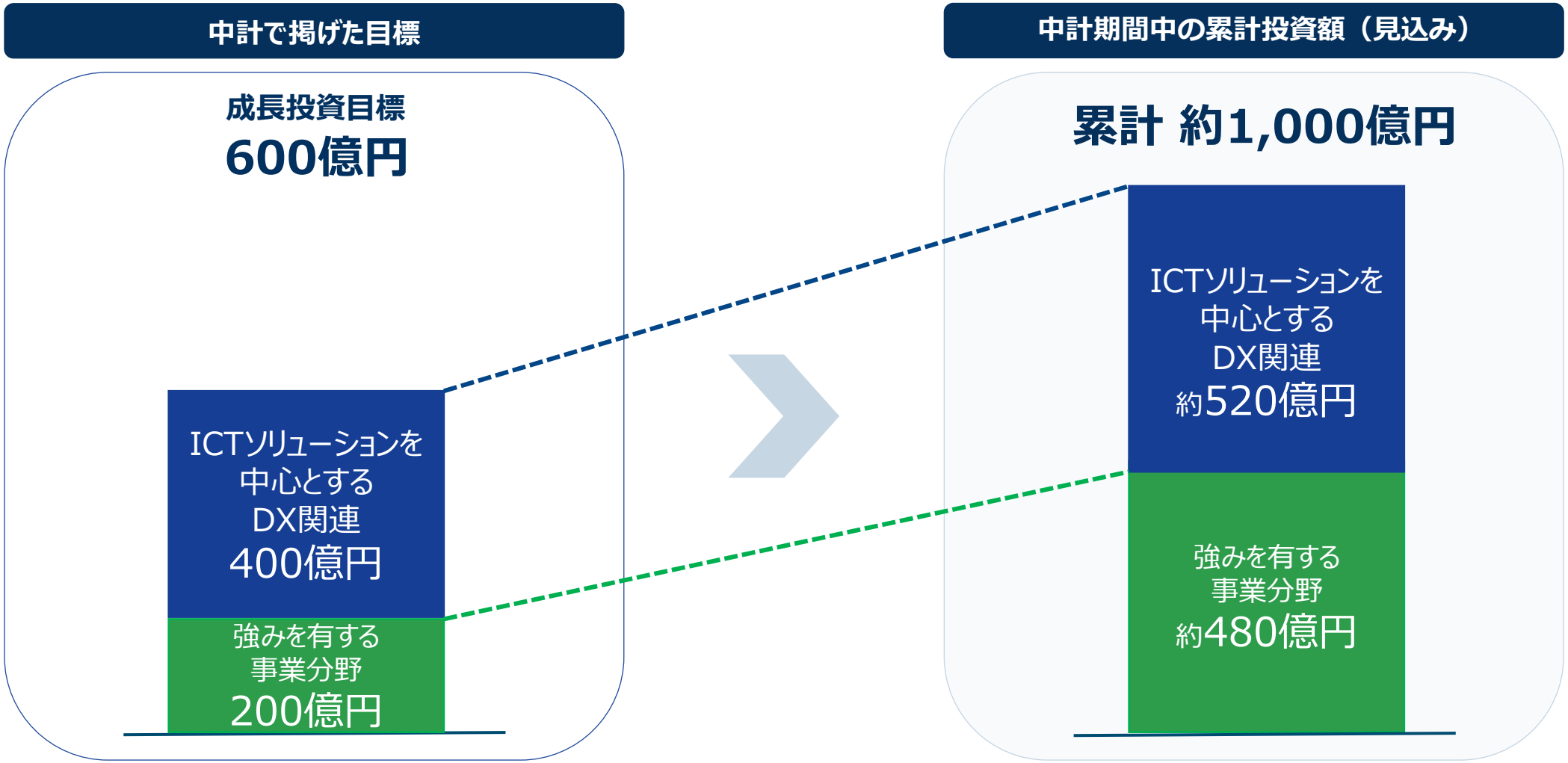
- シリコンバレーのネットワークを通じて事業機会を発掘
- グループ成長戦略推進室を中心に、日本での事業化に向けた取り組みを推進
- 顧客接点・事業機能を活かし、展開先を開拓

グループ横断の連携により、新規事業の創出へ

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

成長投資の進捗

- 中計で掲げた成長投資目標を上回る投資を実行
- 引き続き成長投資を継続し、将来の収益基盤を拡充する方針



© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

投資実績

■ 財務健全性を維持しながら成長投資を着実に実行

中期経営計画期間
累計投資額（見込み）
約1,000億円

2027年3月期末
ネットDER（試算）※
約0.8倍

※27/3末の想定自己資本、有利子負債、現預金から試算

主な投資案件	事業内容
ICTソリューション　株式会社IDAJ（2026年10月）	MBD・CAE(※) に関するプロダクトの販売および技術サポート デジタルエンジニアリングに関する各種コンサルティング ※MBD・CAE：モデルベース開発・シミュレーション解析
ICTソリューション　ルートリフ株式会社（2025年10月）	ITネットワーク・インフラに関わるコンサルティング、設計・構築など
半導体関係　株式会社エレクトロニクスエンドマテリアルズコーポレーション（E&M）（2025年5月）	シリコンウェハ・化合物ウェハ等を取り扱う、半導体バリューチェーン上流の専門商社
食料海外展開　Grass Fed Foods, LLC（米国）（2026年11月）	グラスフェッド (牧草飼育) ビーフを使用した食肉加工品の製造・販売等

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

強みを有する事業分野

（単位：億円）

注力事業	当期利益見通し 27/3月期	取組み
ICTソリューション[1]	110	**M&Aを通じて専門人材・機能を取り込み、提供価値を拡充** 例：IDAJへの出資により、設計・解析領域の専門性やコンサルティング機能を獲得
半導体関係[2]	40	**M&Aを通じメーカー機能、保守・運用機能を取り込み、バリューチェーンの機能拡張** 例：E&M社の参画により、ウェハなど材料分野の提供機能と収益機会を拡大
防衛・航空宇宙[3]	24	**長年培った知見を活かし、国内での提供領域拡大と海外輸出事業を推進** 例：次期初等練習機T-6の包括支援提案、豪州フリゲート艦用エンジンの輸出 Textron Aviation Defense LLC. Beechcraft T-6 Texan II 
食料海外展開[4]	64	**高付加価値商品の展開、M&Aを通じて海外での事業領域を拡大** 例：サステナブルコーヒー等の高付加価値商品を拡充、北米製麺事業の製造拠点を獲得
合計	238	

安定収益基盤	当期利益見通し 27/3月期	取組み
モバイル[5]	87	**販路拡大と高付加価値商材拡充による安定収益基盤の強化** 例：M&Aによる直営店の増加、法人向けソリューション商材の取扱い拡大

1）ICTソリューションセグメントの当期利益
2）半導体部品・製造装置、電子機器・電子材料事業の当期利益の合計
3）航空宇宙事業における当期利益
4）食料セグメントにおける当期利益
5）モバイル事業における当期利益

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

価値創造基盤　~現場起点で実現するサプライチェーン変革モデル~

成長投資・
イノベーション投資

未来を創る力

掴む

顧客現場

課題発見



現場に入り込み、
お客さまと共に
課題を発見

商社人材が顧客の現場に入り込み、商社機能を活かして課題を共に解決

トレーディング
（顧客現場との共創力）

課題を見つけ、動かす力

場をつくる

価値創造基盤

商流×デジタルの融合による共創の場

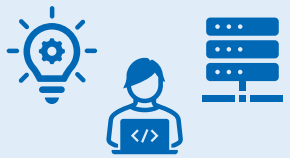
ICT
ソリューション
（デジタル実装力）

実装し、変革を支える力

掴む

顧客現場

実装・運用



ソリューションを
実装・運用

エンジニアが顧客の現場に常駐し、DXを構想から実装・運用まで伴走

越える

顧客課題の解決と価値創造

効率的かつ持続可能なサプライチェーンの変革をリードする
ソリューションプロバイダー

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

課題を掴む　～専門機能獲得による提供価値拡充～

■ AIを含む設計・解析の専門人材を有するIDAJの参画により、顧客の課題発見から解決策の提供まで踏み込んだ提案力を強化

IDAJ投資に至るまでのグループ一体経営の歩み

01 **KELの完全子会社化**
2023年 TOB実行

02 **人材交流**
グループ一体経営を推進

03 **クロスセルの進展**
顧客基盤を相互活用

04 **IDAJへの成長投資**
2026年10月 投資実行

積み上げたグループ基盤

2万社以上の顧客基盤
顧客接点・現場で課題を捉える力

幅広い事業領域

人材交流・クロスセル
知見・関係性・案件創出の実績

IDAJ参画で獲得する機能

IDAJ参画
設計開発DXの専門性

- AI技術開発人材
- MBSE・MBD・CAE・PLM
- 技術支援、エンジニアリングサービス
- コンサルティング

グループ全体へ広げる提供価値

✓ **提供領域の拡大**
設計・解析から製造・運用まで一貫支援

✓ **顧客基盤の相互活用**
IDAJが強みを持つ自動車業界とKELが強みをもつ製造業でクロスセル

✓ **事業領域・地域への横展開**
他部門・グループ会社・海外へ展開

✓ 専門機能と顧客基盤を掛け合わせ、設計開発、シミュレーションから製造・実装、運用まで、より高度な課題解決へ

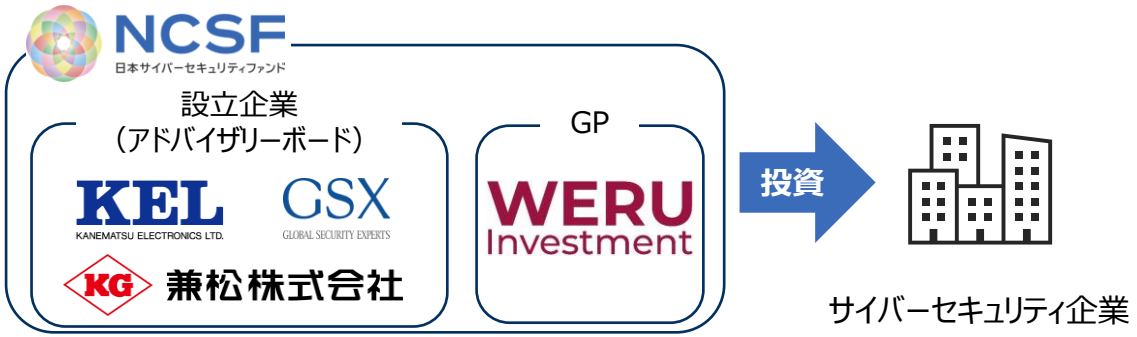
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

課題を掴む　～専門機能獲得による提供価値拡充～

■ 日本初のサイバーセキュリティファンドを設立し、セキュリティ領域での知見・技術の取り込みに注力

設立の概要

- 設立日：2024年4月1日
- 形態：投資事業有限責任組合（LPS）
- 無限責任組合員（GP）：ウエルインベストメント
- 発起企業：兼松、KEL、グローバルセキュリティエキスパート（GSX）



LP出資者一覧 ※五十音順

1. AGS株式会社
2. 株式会社AGEST
3. アルプス システム インテグレーション株式会社
4. 株式会社網屋
5. 株式会社エーアイセキュリティラボ
6. **兼松株式会社**
7. **兼松エレクトロニクス株式会社**
8. **グローバルセキュリティエキスパート株式会社**
9. サイバートラスト株式会社
10. 株式会社セキュア
11. 株式会社セキュアスカイ・テクノロジー
12. 株式会社セキュアヴェイル
13. セグエグループ株式会社
14. 株式会社SIGグループ
15. ディクスホールディングス株式会社
16. 株式会社テリロジーホールディングス
17. 株式会社電通総研
18. トビラシステムズ株式会社
19. バルテス・ホールディングス株式会社
20. 株式会社ハンモック
21. 株式会社ピーエスシー
22. 株式会社ブロードバンドセキュリティ
23. ユナイトアンドグロウ株式会社
24. 株式会社ロココ
25. 株式会社ワールドスカイ

活動実績と今後

活動実績

LP参画企業
計25社
設立時3社

投資実行
3件

● 投資先の概要

2025年9月
Security Diet® LRM株式会社
セキュリティ教育・認証支援
- 情報セキュリティ教育クラウド「セキュリオ」を提供
- ISMS等の認証取得・運用を支援

2025年10月
CONSTELLA SECURITY JAPAN
脅威インテリジェンス・認知戦対策
- サイバー攻撃やSNS上の脅威情報を収集・分析
- 認知戦対策やリスク調査・分析サービスを提供

2026年9月
Confidencial
企業機密データを保護するセキュリティ技術
- 機密データの安全な共有・活用を支援
- 米DARPA発の技術を基盤に、既存のビジネスソフトウェアへ統合

● 今後の展望

- KELの専門組織を軸に、セキュリティビジネスを強化・拡大
- ファンドを通じて知見・技術を取り込み、顧客課題への対応領域を拡大

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

場をつくる　～食料海外展開～

■ 海外での事業拡大に向け、現地に事業の足場を築く

北米製麺事業

現地拠点・販売基盤から日本食ビジネスを拡大



Nippon Trends Food Service, Inc.

現地製造基盤を構築
生麺の製造・販売機能
（Nippon Trends Food Service, Inc.）

販売ネットワーク
北米のレストラン・小売など多様な販売チャネル

周辺領域への展開
ラーメン食材など、日本食関連ビジネスへ拡大

北米進出の足掛かりとなる製造拠点を構築

課題を掴む

現場に入り込み、課題を発掘

兼松グループの強み

- 2万社以上の顧客接点
- 幅広い事業領域
- 国内外のネットワーク
- トレーディングで培った知見

場をつくる　場をつくる

ウルグアイビーフ事業

調達から販売まで海外市場で築く新たなサプライチェーン



安定調達基盤を構築
ウルグアイのパッカーとの連携により安定供給体制を強化

販売基盤
米国東海岸を中心に販売を展開し、西海岸での拡販も目指す

ブランド化・市場拡大
米国におけるウルグアイビーフのブランド化を推進
2026年11月、Grass Fed Foods 社へ出資

食料安定供給に向けた産地多角化 川上参入

✓ 海外に築いた事業の足場を起点に、グループの機能を活用した事業成長を目指す

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

越える　～事業×ICT～

■ 各事業の顧客基盤・現場知見とICTを掛け合わせ、提供価値と成長機会を拡大

防衛 × ICT



Textron Aviation Defense LLC.
Beechcraft T-6 Texan II

初等練習機「T-6」の包括支援

機体・部品販売から包括支援へ

- 従来の機体調達に加え、教育・整備・補給などの後方支援までを包括的に提案
- 調達期間の短縮、コスト低減、機体可動率の向上、教育訓練の効率化・最適化に貢献
- 今後、装備品とシステム・運用支援を一体で提供するスキームを活用

防衛 × ICTの提案モデル確立へ

KEL × IDAJ

KEL KANEMATSU ELECTRONICS LTD.

IDAJ integrated digital advanced solution

顧客基盤を活用したクロスセル

顧客基盤を相互活用し、販売機会を拡大

- 2社が有する製造業の顧客基盤を相互に活用
- 短期的には、双方の顧客基盤を活用した製品・サービスのクロスセルを推進
- 中長期的には、設計・解析から製造・ITまでを組み合わせた一貫したソリューションを提供

製造業を起点にソリューション力を強化し、各業界への展開を拡大

食料 × ICT



流通DXプラットフォーム

商流で把握した課題をデジタルで解決

- アナログな流通管理による情報遅延・伝達ミス・事務負担が業界課題
- 牧草の受発注・出荷・輸送情報を一元化し、リアルタイム共有
- 今後はAIを活用し、需要予測・物流最適化を目指す

トレーディングの現場課題に、ICT機能を活用

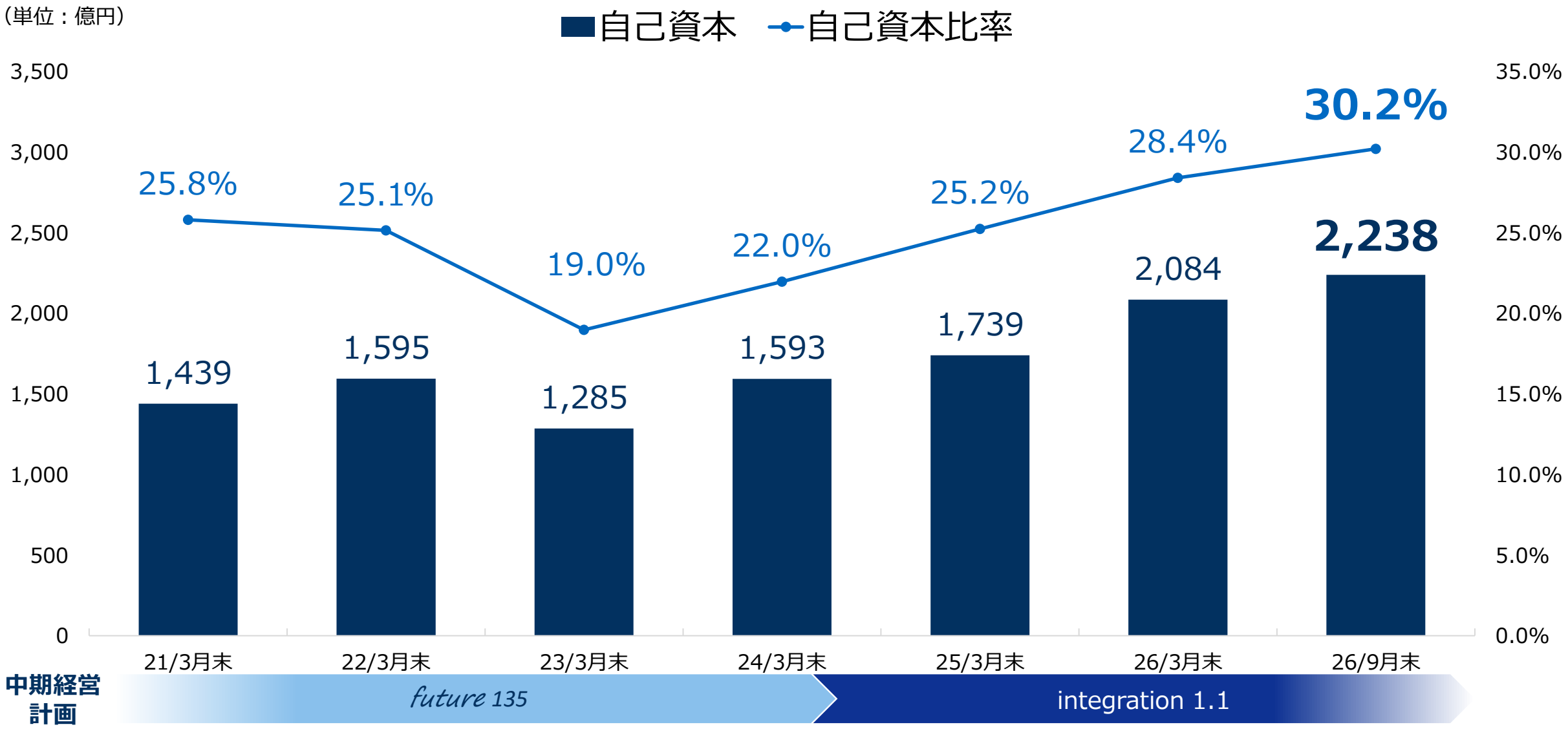
✓ 事業・会社・顧客業界を「越え」、提供価値拡充と成長機会につなげる

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

補足資料

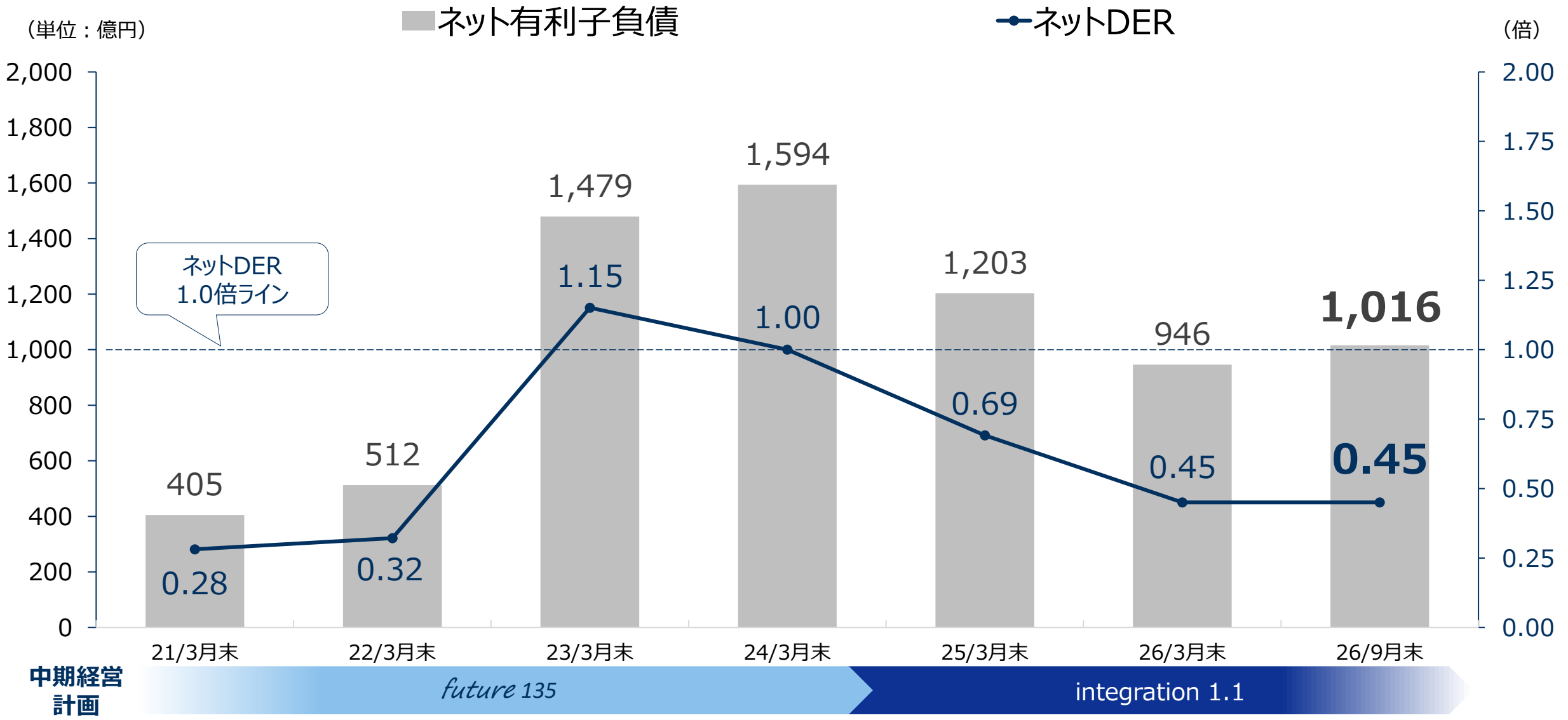
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

自己資本と自己資本比率の推移



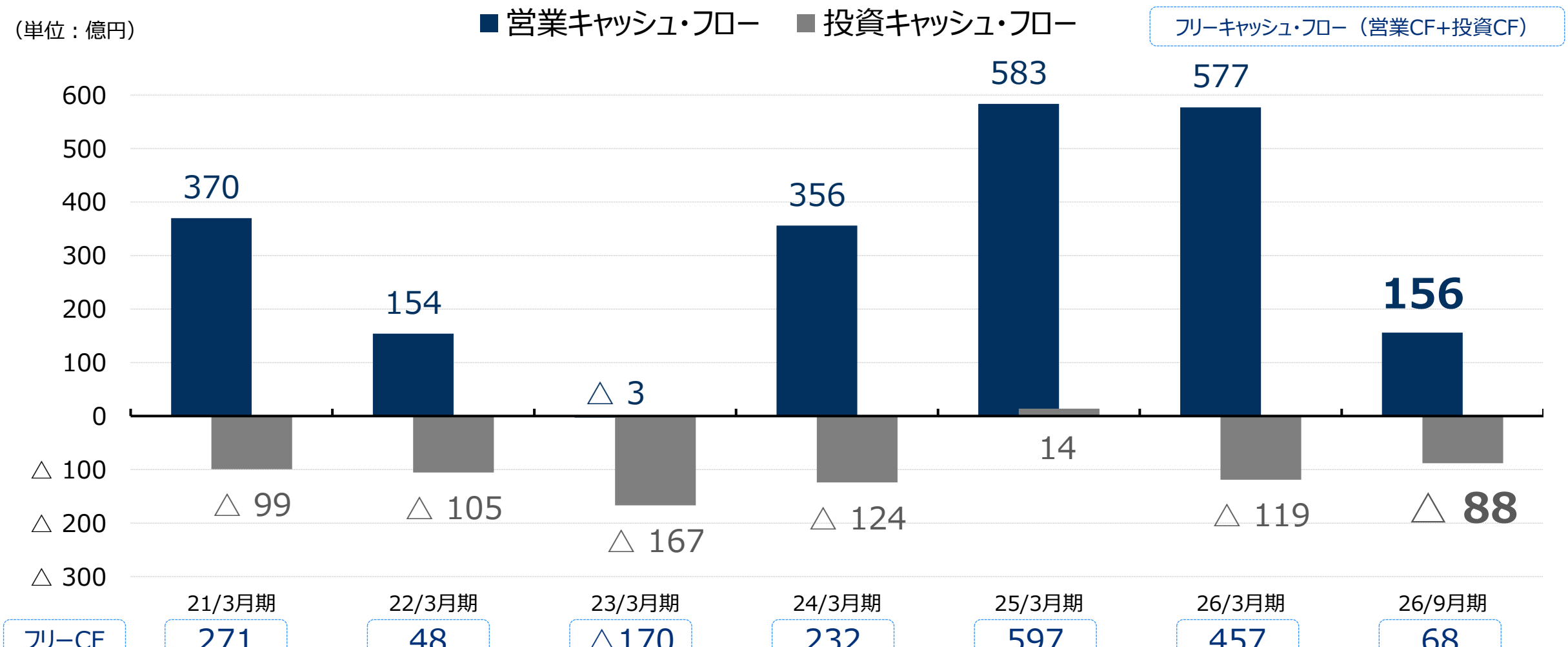
© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

有利子負債とネットDERの推移



© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの推移



© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.

主要連結子会社の状況

(単位:億円)

会社名（五十音順）	主な事業内容	26/3期 2Q実績		27/3月期 2Q実績		営業利益 前年同期比
		収益	営業利益[1)]	収益	営業利益	
兼松エレクトロニクス	ICTソリューション	535	78	636	83	+5
兼松ケージーケイ	工作機械・産業機械	59	4	74	11	+7
兼松ケミカル	化学製品・医薬品	24	4	33	6	+2
兼松コミュニケーションズ	モバイル	918	62	996	73	+11
兼松サステック	地盤改良・木材加工等	70	4	74	7	+3
兼松フューチャーテックソリューションズ	半導体・電子部品・モジュール製品	105	8	163	16	+8
兼松ペトロ	石油製品・ガス	135	6	198	17	+11
兼松食品	食品・畜水産	273	4	300	8	+4
新東亜交易	商社	349	18	385	18	+0
Kanematsu USA	海外現地法人	292	18	318	12	△6
合計		2,760	206	3,177	251	+45

主要連結子会社合計　26/3月期 2Q 営業利益：206億円 ▶ **27/3月期 2Q 営業利益：251億円**　**前期比 ＋45億円（+22%）**

1）営業利益は、営業活動に係る利益を記載しております。
2）数値は国際財務報告基準（IFRS）に基づく連結ベースの数値です。

© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.



© KANEMATSU CORPORATION. All Rights Reserved.